

中国基本情况丛书

中国教育

蘇曉環 著

中国

中国基本情况シリーズ



五洲传播出版社

中国基本情况丛书

顾 问 李 冰

主 编 郭长建

副 主 编 宋坚之（执行） 吴 伟

作 者 苏晓环

修 订 刘 梦

翻 译 张毓英 施殿文 夏祖芬 赵玉琳

杨 莉 陈 炜 孙霄燕

责任编辑 徐蔚然

装帧设计 飞 扬

图书在版编目（CIP）数据

中国教育 / 苏晓环著. —2版. —北京:

五洲传播出版社, 2006.7

ISBN 7-5085-0947-1

I. 中...

II. 苏...

III. 教育事业—概况—中国—日文

IV. G52

出版发行 五洲传播出版社 (北京海淀区莲花池东路北小马厂6号 邮编: 100038)

电 话 8610-58891281 (发行部)

网 址 <http://www.cicc.org.cn>

设计制作 北京天人鉴设计制作有限公司

印 刷 北京画中画印刷有限公司

开 本 889 × 1194 毫米 1/32

字 数 60 千字

印 张 4.75

版 次 2006 年 7 月第 2 版

印 次 2006 年 7 月第 2 次印刷

印 数 1-3000 册

书 号 ISBN 7-5085-0947-1/G · 105

定 价 54.00 元

中国基本情況シリーズ

中国の教育

蘇曉環 著

五洲伝播出版社

目 次

まえがき	4
第一章 教育の過去と現在	6
第二章 基礎教育	16
第一節 幼児教育	16
第二節 義務教育	27
第三節 特殊教育	42
第三章 職業教育	50
第一節 職業教育の発展過程	52
第二節 職業教育の学校運営システムと管理システム	59
第三節 職業教育の科目設置と教学	60
第四章 高等教育	62
第一節 大学・高等専門学校教育の発展の歩み	62
第二節 大学・高等専門学校教育の学校運営システムと 管理システム	65
第三節 大学・高等専門学校教育の学生募集制度と卒業 生の分配制度	67
第四節 カリキュラムと学習	71
第五節 大学・高等専門学校の教育と教学	73
第六節 大学・高等専門学校の科学研究活動	75
第七節 大学・高等専門学校の公共サービスシステム	77
第八節 大学院生の教育と学位制度	79
第五章 成人教育	82
第一節 成人教育の発展過程	82
第二節 非識字者の教育	85
第三節 成人の大学・高等専門学校教育	88

第六章 少数民族的教育	90
第一節 民族教育の発展過程	91
第二節 民族教育の管理システムと学校運営の形態	95
第三節 民族の師範教育と小・中・高校の教師	97
第四節 民族教育のために制定した特殊な政策	98
第七章 遠隔教育	104
第一節 遠隔教育の発展過程	105
第二節 現代遠隔教育学校の運営方法	109
第三節 在来の教育分野に進出する現代遠隔教育	110
第八章 師範教育と教師	114
第一節 師範教育	114
第二節 教師	118
第九章 国際交流と協力	124
第一節 外国への留学	124
第二節 外国人留学生の教育および対外漢語教学	131
第三節 その他の交流と協力	134
第十章 教育に対する投資体制	138
第十一章 教育についての科学研究	146
第一節 教育についての科学研究の発展過程	146
第二節 研究機構と研究者	147
第三節 学科の整備と研究成果	148
結び	150

まえがき

21世紀の今日、中国の経済、社会、政治の発展にともない、教育はますます人びとの関心を引く問題となっている。

中国の普通の家庭では、子供は一般に3歳から就学前教育を受け、幼稚園では、主に遊びで、5、6歳になると、遊びのかたわら、10以内の足し算、引き算と漢語の音標文字を習い始める。このように幼稚園を出た子供は、小学校の一年生になったとき、勉強がわりに楽である。

小学校は近くの学校に入り、主な科目は国語と算数で、このほかに英語、自然、図画、音楽、体育がある。もっと多くことを勉強させたいと思う親は子供を舞踊、書道、英語などさまざまな訓練班に入れたりするが、これはもちろん義務教育の範囲に属さない。

小学校を卒業すると、中学校に入り、中学校では、国語、数学、英語や物理、化学、コンピューターなどの基礎課目を学ぶ。中学3年生になると、普通高校を受けるか職業高校を受けるかというかれらにとって最初の人生の選択に直面する。中国の普通の家庭にとっては、子供が普通高校に受かれば、将来大学に進学する望みが濃くなり、これはよい選択だと言える。職業高校に進学することしかできなかったなら、例えばアート・デザイン、コンピューター操作、自動車修理など実用的な技術を学んで、卒業後は就職し、または引き続き勉強して、高等職業学校あるいは普通大学を受けることもできる。高校の3年間は子供と親にとってプレッシャーが大きい。大学の受験競争があまりにも激しいからだ。国は学生募集数を増やしているが、それで

も高校卒業生の半分ほどしか大学に進学することができず、あとの半分は働きながら、成人教育、ネットワーク教育などさまざまな方法で引き続き学ぶことができ、高等教育はすでに少数の英才教育ではなくなり、ますます幅が広がってきている。

中国社会の変化は非常に大きく、経済の急速な発展は若者により多くの理想を実現する可能性を与えている。大学卒業後、もし引き続き勉強する気持ちがあるなら、自分の興味のある専攻の修士コース、博士コースを受けることができ、またもし就職を望むなら、働きながら、学び、たとえば専門の養成訓練コース、あるいはネットワークを通して遠隔教育の養成トレーニングを受けることもできる。

1949年に中華人民共和国が成立して以来、中国の教育は大きな変化をとげたが、人口が多く、各地の経済、文化の発展が不均衡であるため、教育の全体的水準はまだ低く、国の経済、社会の発展の要求を満たすにはなお長い道のりを歩まなければならない。

中国科学会堂

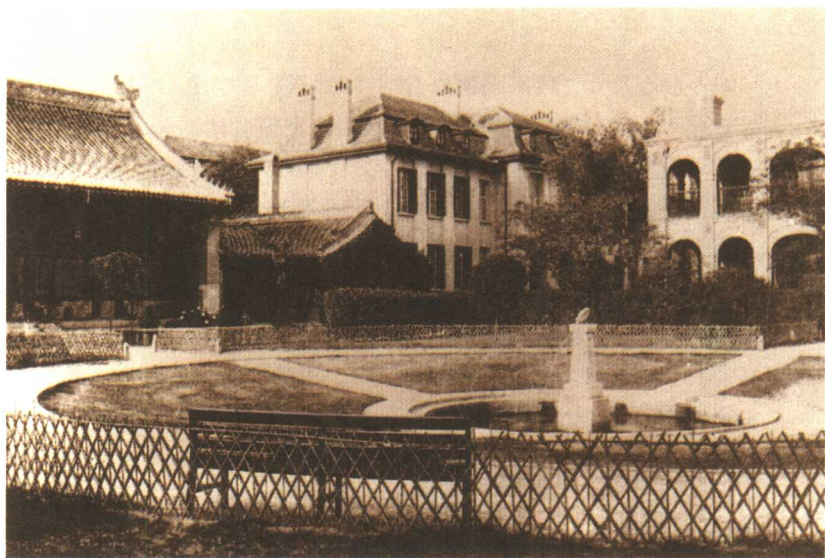


第一章 教育の過去と現在

中国には昔から教師を尊重し、教育を重視する伝統がある。中国人の尊ぶ孔子（前551－前479）は思想家、教育家であった。2000余年前に、孔子は私塾を創設し、自由な授業の仕方、「官による学校運営」という独占を打破り、平民に教育を受けさせるということが可能となった。孔子が教えた弟子は3000余人であった。その後、私塾はだんだんと官学と並行した教育システムとなり、孔子に代表される儒家の思想と経典が、中国の

1919年に、中国の大学は女子学生を募集し始めた。写真は1919年に北京燕京大学の図書館内で写真におさまった女性の学者たち





1910年、中国の大学は分科学院の設置を始めた。写真は
20年代の北京大学理学院の跡

封建社会の教育の主な内容となった。

中国の学校教育は数千年を経て、前21世紀の夏（前約2070—前1600）に学校、官学などの教育機構が現れた。封建教育の主体は官学であり、官学には歴代の中央の官学と、官庁が行政区画に基づいて地方で運営する学校が含まれることになった。これらの学校は封建社会の後期には、試験によって官吏を選ぶ科挙制度の追随者となった。

中国では、封建教育の主な目的は官吏を育成するとともに中国の封建社会の特殊な社会階層——「士」といわれる文人階層をも育成した。科挙制度は官庁が定期的に行う科目試験を経て、優秀な人材を選び、官吏を登用する制度であった。以前の世襲制度と、その人間の出身によって官吏を選ぶ制度との違いは、一般の読書人はだれでも試験に参加して官吏に選ばれる機会があることであり、封建的な王朝はより大きな範囲から官吏を選ぶことができたわけである。科挙制度は隋（581—618）に始まり、1300年を経て、初期の科挙試験は学校教育と平行するも

のとなったが、科挙試験に合格すれば官吏に選ばれることができたため、科挙試験は逐次封建社会の官僚政体の一部分となり、学校教育の上に凌駕し、封建社会において教育を受けたものが特権階層の利益を手にするための登竜門となり、中国の封建社会のアンバランスな発展をもたらした。明（1368－1644）、清（1644－1911）の時期、さらに文章のスタイルは八股文であるべきと定め、知識の幅が広く記憶力が優れていることによって人材を選んでいった。封建時代では、中国の古代の科学技術の発展に従い、学校教育は儒学を主とすると同時に、次第に数学、天文学、中国の伝統的な医学などの知識も加えられるようになった。唐（618－907）の頃には、また一部の専門的学校を作り、太医（侍医）署、太仆寺、司天台などの官僚機構を設立し、科挙試験による学生を募集し、専門の人材を育成した。このよう

孔子廟は中国の歴代において儒家学説の創始者孔子を記念する文化のシンボルであった。それは孔林、孔府とともに、ユネスコによって「世界文化遺産」に登録されている





「清華園」といわれる清代の皇室の四合院が北京清華大学のキャンパスの中にある

な学校は唐、宋（960－1279）の時代に一定の規模を備えるところまで発展をとげたが、中央官学の中で、このような学校の政治的地位はわりに低く、官学の衰退と廃止に従い、自然科学の知識と技術（手芸を含む）の伝承は次第に民間に移り、個人によって伝授されるようになった。

1840年のアヘン戦争以後、西側の近代的な科学技術が中国に伝わってきたため、科学試験の無味乾燥な欠陥がますます暴露されることになり、有識者の非難の的となった。光緒三十一年（1905年）、清王朝は「科学制度をやめて学校を広め」科举制度は廃止した。

現代的な意義での学校は中国では19世紀60年代に現れ、最初は外国語学校、兵学校と技術学校であり、その時の清王朝は若者をイギリス、フランスなどに派遣して軍事と技術を学ばせた。20世紀初めに、清王朝は一連の新しい「学校規約」を公布した。中国人の受けるすべての教育を3つの段階と5つの等級に分けた。初等教育は9年、中等教育は5年、高等教育は7年

であった。児童は7歳になると入学し、学ぶ科目は依然として中国の儒家の經典的著作を勉強することを重点とし、教師のほとんどは書院、郷塾の出身者であり、大学の卒業生には官職を授与されることになっていた。この時の学校は依然として女子生徒を募集することを拒否し、女の子は家庭の中でしか教育を受けることができなかった。

1911年に起こった辛亥革命はブルジョア民主主義革命であり、それは清王朝（1644－1911）の支配を覆し、2000年以上続いた封建専制君主制に終止符を打った。1912年に、樹立されたばかりの中華民国（1912－1949）は封建的な教育に対して全面的な改革を行った。1915年に始まった新文化運動が民主、科学の大きい旗を挙げ、1917年にはロシアで十月革命が起こり、1919年には中国でさらに反帝国主義・反封建の「五四」運動が巻き起こったことなどに直面し、中国の社会に大きな影響をもたらし、教育が時代の前進する足並みについていくことを

20世紀50年代の初め頃、中国の多くの地方では速成識字クラスが創設された。写真は文化館で本を読んだり新聞を見たりする、読み書きを覚えた農民たち





1977年の大学入試の受験生たち

促すことになった。「五四」の時期から、学校の教育は経典を読むことを廃止し、教科書は文語文を白話文に直し、注音字母という音標システムを推進し、大学が女子学生を募集することを認め、教育は大衆化、実用化に向かい、いくつかの西側の教学理論と教学方法も中国に紹介され、学制、カリキュラム、教材、教授法などの一連の改革をもたらした。

1949年10月1日、中華人民共和国が成立し、その1カ月後に、中央人民政府の教育部が創設された。この時から、平和と安定の社会的環境の中で、教育は新しい発展を始めた。

1949年から現在までに、数世代の模索と実践を通して、中国の教育は改革と調整の中で半世紀余りを歩んできたことになる。1949年から1966年までの17年間に、中国では一応の規模の就学前教育、小・中・高校、大学の教育および成人教育システムが構築され、全日制教育、業余教育、勤務時間内にとくに時間を手配して系統的に学習するなどの教育形態が実施された。

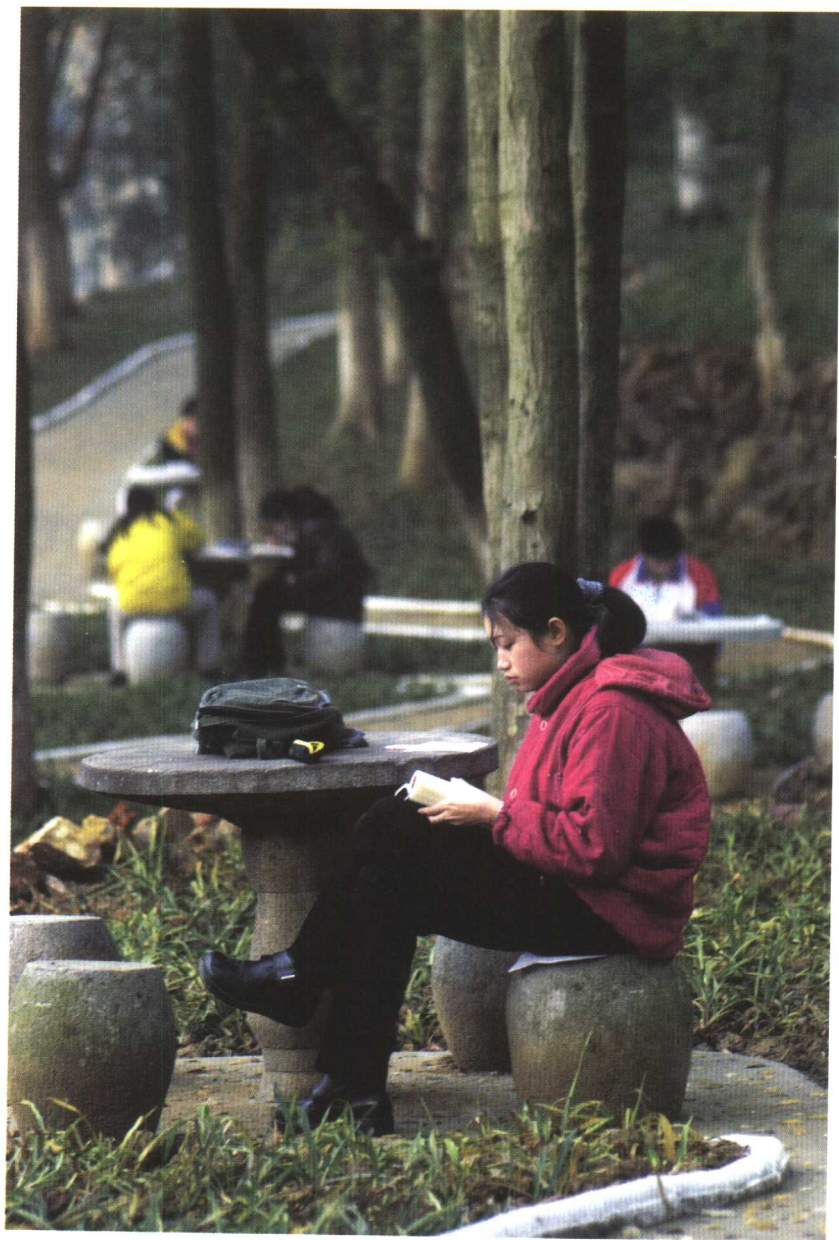
1957年、毛沢東はその時の歴史的条件下で、「教育を受ける者を徳育、智育、体育のいくつかの面で進歩させ、社会主義

的自覚を備えた教養のある労働者となるようにすべきである」という中国の教育方針を提出した。これはその後の20、30年間において中国の教育の発展の方向となり、その精神は今でも生き続けている。

1966年から1976年までの「文化大革命」は国と民族に大きな災禍をもたらした政治運動であり、この間に、中国の教育の正常な発展は完全に中断し、正常な授業の秩序はぶちこわされた。

1976年以後、中国は建設を中心とする発展の道を歩むようになった。中国で改革・開放政策が実施されていらい、教育事業は改革と発展の足取りを速めた。

教育体制の改革は20世紀80年代の中期に全面的にスタートした。計画経済から市場経済への転換に伴い、教育行政部門はまず以前の計画経済体制の下で形成された現行の経済体制と社会の必要から立ち遅れた部分に対し逐次改革を行い、例えば、以前中央政府が統一的に管理していた高度に集中した教育管理体制を変え、一部の管理権を地方政府に移した。基礎教育は主に地方政府が責任を負い、大学・高等専門学校教育、職業教育の分野で学校の学校運営自主権を拡大することになった。以前のようなよりどころとしない法律がない行政管理の方式を変え、教育分野の法制整備を強化し、それによって教育の立法は無から有へとすすみ、いまでは経済の分野を除けば法律の制定が最も多い分野となっており、すでに公布して実施されたものとしては『中華人民共和国学位条例』（1980年）、『中華人民共和国義務教育法』（1986年）、『中華人民共和国教師法』（1993年）、『中華人民共和国教育法』（1995年）、『中華人民共和国職業教育法』（1996年）、『中華人民共和国大学・高等専門学校教育法』（1998年）、『中華人民共和国国家通用言語文字法』（2000年）、『中華人民共和国民営教育促進法』（2002年）など8つの教育法律および16の教育行政法規と200余りの教育行政規則などがあ



朝、読書に励む大学生たち

り、教育法律法規システムの基本的枠組みがすでに出来上がっている。

20世紀90年代、知識経済の時代の到来にともない、科学技術と教育はますます経済が長期的に、健全に、急速に成長をとげる、持続可能な発展の原動力となった。中国政府は改革と発展についての全局的戦略を制定する際に、科学技術と教育を優先的発展の位置に置き、「科学教育による国の振興」が中国の基本的国策となり、教育は国民の資質を高め、創造精神と想像力を持つ人材を養成する重要な任務を担っている。人材の育成、知識のイノベーション、知識の伝播、知識応用推進の面における教育の重要な役割は、知識経済における教育の基礎的地位を決定づけるものとなった。

1999年6月、中国政府は教育改革を深化させ、資質教育を全

1927年創設の杭州天長小学校は「たのしい教育」で中国の教育界で有名であった。興味教授法は「資質教育」を唱える人びとの興味を引いた



面的に推進する決定を行った。この決定は民族の資質とイノベーションの能力を高めることを重点とし、教育体制と構造の改革を深化させ、資質教育を全面的に推進し、教育の機能を知識の伝播から教育を受ける者の総合的資質を全面的に向上させることに変えた。これは教育の資源をさらに科学的に、さらに合理的に配置、利用し、教育の質と学校運営の効果を絶えず高めることを目指すものである。

新しい世紀において、中国の教育分野は改革の中で学歴取得教育を主とする学校教育システムを絶えず充実させ、職業資格の教育を主とする業種と企業教育システムを健全化し、文化生活の教育を主とする社会教育システムを設置し、全国の各地区と各企業で就職前の教育と就職後の教育を互いに結びつき、正規の教育と非正規の教育を同時におしすすめ、学歴取得教育と非学歴取得教育を同様に重視する生涯教育ネットワークを形成し、異なった年齢、異なった職業の労働者のために開放的な、多様化、社会化した教育を受ける機会を提供することになろう。